



コーちゃん・オーちゃんの 「見つけた！豊岡元気人」



永楽館復原工事現場見学会で説明する田中さん

「住む方の満足が一番大切」と話す田中さん

住む方の気持ちに寄り添い 満足できる家を建てる元気人

卓越した職人技で古民家を再生し、後継者の育成にも心血を注ぐ元気な男性を紹介します。

田中 定さん(74歳)出石町弘原

優れた技能・業績を持ち、新たな技術の開発や後継者育成で貢献した人を顕彰する「現代の名工」(厚生労働省発表)に建築大工の田中 定さんが選ばれました。

大工一筋58年

「大変大きな賞をいただき、感謝しています。でも、私人の力ではなく、いろいろな方の協力で、いろいろな仕事をさせてもらったことが評価されたと思っています」と喜びを語ります。

田中さんは、中学卒業後にこの業界に入り、58年間にわたり木造伝統工法に取り組みできました。平成元年に(株)川嶋建設に木造建築・住宅部門の棟梁として招かれてから、古民家再生事業に携わるようになりしました。

古民家再生のプロに

その技術で名を轟かせたのが、阪神淡路大震災で被災した造り酒屋「卜部邸」(明石市)の改修工事。建築当時(約280年前)の風合いを残したまま、さらに100年住める家に再生しました。

以後、古民家再生を数多く依頼されるようになりました。

「家には家族の歴史が刻まれています。その思い出を残しつつ再生していくのが職人技」と田中さんは力を込めます。

出石永楽館の復原に貢献

記憶に新しいのが平成18年から2年掛けて行われた現存する近畿最古の芝居小屋「出石永楽館」の復原工事。田中さんは現場の棟梁として同館の44年ぶりの復活に貢献しました。

「永楽館には思い入れがあります。でも、このような貴重な文化財の再生は経験がなく苦勞し、時間も掛かりました」と苦笑い。「現状の写真を撮り、柱に記号を付してから解体し、傷んだ部分のみを取り替えて再生する。まさに『未知』の仕事に、持てる力の全てを注ぎ込みました」と田中さんは振り返ります。

後継者の育成に尽力

40歳で棟梁となり、国家プロジェクト「大工育成塾」の講師を務めます。また、県建築大工技能士会長や県立但馬技術大学の非常勤講師も務め、後継者の育成に当たっています。「人には個性があります。個性を生かした指導をするのが棟梁の務め。伝統的な木造

建築で家族が触れ合う空間をつくる大切な仕事を若い世代に伝えていきたいです」と田中さんは意気込みます。また、「大工は高度な技術が必要ですが、でも、評価するのはお客さん。お客さんの気持ちに寄り添い、お客さんに満足してもらえることが大切です」と語ります。「仕事をしていてつらいことは山ほどありますが、お客さんの『ありがとう』の一言で苦勞が吹き飛びます」と笑顔で話します。

「若いころ師匠に『玄関を開けた瞬間に家の状態を知れ』と言われました。玄関は家の顔。玄関でその家の主の思いを見分けられるようになれば一人前です。そのような後継者を育てたいです」と若い後継者たちに熱い視線を送っていました。



中貝市長に受賞報告

広報マンがやってきた!

幼稚園編

24

港西幼稚園

(豊岡)

〈園児15人〉



港西幼稚園は、津居山港の近くにあり、すぐ目の前に日本海を望むことができます。

12月6日、クリスマスマスのプレゼントを入れてもらうための靴下作りが行われましたので、その様子をのぞいてみました。

お母さんたちと一緒に作ろう

今日は、糸と針を使って布の靴下を作るため、園児のお母さん3人に手伝いに来ていただきました。

園児たちは4班に分かれ、お母さんや先生に教わりながら靴下を作ります。

いろいろ気になります

はじめは、お母さんたちに



一つ一つの工程を「これでいいの?」と確認しながら作っていました。

第1に「サントさん、プレゼントト持ってきてくれるかな?」と心配になったり、「どこまでできた?」と他の園児に出来具合を確認したりと、いろいろなお母さんたち



ちから「みんなが頑張っているよ」と励まされ、途中で投げ出すこともなく靴



途中途中で投げ出すこともなく靴

下を完成させていました。

作り終えて...

靴下を作り終えると、完成した靴下の中をうれしそうにのぞき込んだり、先生に見てもらったりしながら、「針を使うので、恐かったけど、やってみたら楽しかった」と喜んでいました。



最後にお母さんたちから「できていない友達をちゃんと手伝っていましたね」「頑張れば何でもできますね」などの言葉をもらい、とてもうれしそうでした。



クリスマス会当日が楽しみです。



笑顔の輪

手軽にできて、奥が深いお手玉

豊岡市港地区お手玉の会(豊岡)

豊岡市港地区お手玉の会(港の会)は、会長の中嶋則子さんが、笑顔と元気を届けたいと、神戸の会から指導を受け、但馬で初めてのお手玉の会として、平成11年に設立されました。

3人1組で競う団体戦が行われました。港の会は、競技参加に加え、奈良・和歌山両県の被災者への寄付のために手作りお手玉の販売も行いました。



▲大会の練習も楽しそう

▼メッセージ入りお手玉



さらさらにお昼のお手玉演舞では、「上を向いて歩こう」で元気を贈り、手作りの「玄さんファミリー」が山陰海岸ジオパークを紹介しました。また、港の会は、普段から保育園や福祉施設を回り、お手玉の魅力を伝えていきます。

全国組織「日本のお手玉の会」の下、全国大会、ブロック大会などが開催されています。11月27日、近畿ブロック大会が日高文化体育館で開催され、中嶋さんは実行委員長を務めました。大会では、午前中は5種目の個人戦、午後は

お手玉はいつでもどこでも誰とでもでき、脳を活性化し、運動神経を良くする効果もあります。中嶋さんは「お手玉を楽しむ男性がもっと増えてほしい」と笑顔で話していました。